

平成31年度 学校自己評価重点目標シート (川口市立戸塚中学校)

学校教育目標	・自ら考えよく学ぶ生徒 ・心豊かで思いやりのある生徒 ・心身ともに健やかな生徒
目指す学校像	「落ち着きと潤いのある学び舎」 創意あふれる教育活動を展開し、保護者・地域に信頼される学校

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、学校関係者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	
学校関係者（教職員を除く）	名
事務局（教職員）	名

学 校 自 己 評 価						
領 域	年 度 目 標			年 度 評 価 (平成 年 月 日 現在)		
	現状と課題	重点目標	具体的方策	重点目標の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
	組織運営	・人的リソースは潤沢であるものの、スケールメリットを生かした組織運営が不十分である。教職員の働き方の軽重も十分にバランスがとれたものではない。組織の改編を急ぎ、分掌の責任の明確化が必要である。	○前年度から取り組んできた分掌組織の全面的な改編を実行。 □部の組織を活用した、チェック機能の強化。 △規約集を活用し、組織・規約の改善を行うことで組織力の強化を目指す。	○全面的な組織改編による分掌の責任の明確化。 □部制度の導入による部長の創設。(担当→部長→管理職のチェック体制の強化) △規約集に沿った会議運営等を行い、年間を通じて組織、制度の改善を行う		
教育課程	・シラバスの統一や教科指導の細部にわたる分析・改善等が不足。個々の取り組みに任されている。各教科における組織としての取り組みが必要。	○五教科の教科会を時間割の中に組み込み、教科会として全体計画の作成や授業改善を行う。 □評価を含めた学習案内を作成し、指導の質の向上を図る。 △道徳の教科化に全教員が対応できるようにする。	○教科会でデータを分析し次年度用の改善策の構築や全体計画の作成を年内に終了させる。 □全教科で、シラバスの記述すべき内容の統一を図りHPに掲載する。 △副担任も含め、教員全員で道徳の授業を輪番で行い指導する。			
開かれた学校づくり	・HPの使いづらさや更新の頻度に課題があり、情報発信力に欠けている。また、昨年度からの取り組みで学校に人を集める企画を打ち出したため、今後も継続していく。	○HPの改良を実施し、機能向上を図る。 □授業公開を1日/月実施し、来校者数増加を図る △異校種間の連携を深め、合同の研修会等交流システムの強化を図る。	○HPとメールのリンクを進め、保護者向け配布資料の電子化を進める。 □来校者数昨年比105%(12月現在)の5200人を目指す △保護者・地域向けのカルチャースクールを開催。小学校・高等学校との連携を進める。			
教職員の資質向上	・教職員の研修意欲が旺盛であるため、その要求に応えるよう、外部への研修、研究発表会、フォーラム等への参加を展開していく。	○外部への研修参加等を積極的に推進し、個々の研修の強化を図る。 □研修の成果を職員で共有する手立てを構築する。 △主体的で対話的な深い学びを地域にある校種を超えた集団で研修する。	○学びプロジェクトへの参加者の倍増。 □教科会、研修会での報告発表を行い、PC内に指定の保存フォルダに保存し共有を進める。 △小学校・高等学校と連携した独自の研修会の立ち上げる。			
施設・設備等の管理	・経年劣化が激しく、修繕と劣化・不具合の速さのバランスを欠いている。先々を見通した計画的な修繕や工事が必要となっている。	○廊下やトイレ等共用箇所と相談室等の計画的な修繕・工事を要望と実施。 □今後計画されている自転車通学に対応できる駐輪場の新たな設置。 △長期計画で聴覚機材(TVモニター等)の計画的な充実。	○廊下のペイント工事により、共用箇所の改善を実施。家庭科準備室の二分化による相談室空間の創設を要望。 □年度内の駐輪場工事実施と体育関連倉庫の新設 △5カ年を目途に、モニターを12台にする。			

学 校 関 係 者 評 価	
※実施日	平成 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	